

星野学園小学校新聞

星野学園小学校
 埼玉県川越市上寺山 216-1
 〒350-0826 Tel.049(227)5588
 星野学園小学校
 Web
www.hoshinogakuen.ed.jp/hes/

児童会選挙

二〇二〇年二月十六日(火)、来年度の児童会を決めるため、児童会選挙が行われた。

児童会とは、全校児童の代表として学校生活をより良くするために活動する児童の組織だ。立候補できる学年は四・五年生で、三年生以上に選挙権がある。クラスの代表として選ばれた児童たちは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動に制限がある中で、選挙活動可能時期に動画を撮り、広報活動に専念した。



各教室でも真剣に演説を聴きました

選挙当日は、三密を避けるため、三・六年生の各教室と体育館をZoomでつなぎ、オンラインでの演説となった。令和二年度の児童会選挙は、プロジェクトやオンラインを活用した新しい形の選挙となったが、臨機応変に選挙活動を行う児童の姿は、とても頼もしく感じられた。令和三年度の児童会も、本校にさらなる輝きを与えてくれるだろう。

(富田)



身振り、手ぶりを取り入れ演説しました

誕生学

五年生の児童は「命」の尊さ、素晴らしさに心を打たれた。講師の久保木裕子先生をお招きして実施された誕生学講演会。五年生の児童とその保護者の皆様に向けた、「命」に関する講演だ。



ハートの折り紙の意匠を考える五年生

講演が始まって間もなく、一人一枚、ハート形の折り紙が配られた。「何だろう」と皆が疑問に思う中、ある児童が気付く。ハートの中心から、光が差し込んでいる。ごく小さな穴が開いていたのだ。その大きさ、わずか一ミリメートル。これが、我々が母親の中で生を受けた瞬間の大きさだという。会場からは驚きの声が上がった。

続いて、この小さな「命」

が赤ちゃんに成長し、命の道を通って生まれるまでのことを、お話いただいた。講演の中では、命の道を通る際の赤ちゃんの体勢を真似したり、実際の出産の映像を見たりと、母体から生まれてくることが、いかに大変なことなのかを学ぶことができた。

誕生学講演を通し、児童は「命」が誕生することの素晴らしさ、生まれてきた「命」の大切さを学ぶことができた。この経験を通じて、彼らは今、最高学年の六年生として活躍している。(森本)

秋の遠足

二〇二〇年十月二十

二日(木)、星野学園小学校の一年生から三年生は、国営武蔵丘陵森林公園へ秋の遠足に行つた。新型コロナウイルスの影響で、ほとんどの行事が中止となる中、遠足に行けるといふことで、子ども達はとても喜んで



五感を使って、観察しました

園内では、子ども達はそれぞれの目的地を目指して長い道のりを歩いた。また、例年とは異なる行程となったが、久しぶりの行事を大いに楽しんでいた。二年生と三年生は大きな運動広場近くへ行き、草花の観察やスケッチを行った。一年生は、ケイトウ等が咲いている野草コースを散策した。散策後は、一緒に昼食を食べて、親睦を深め合うことができた。子ども達は、自然に囲まれた公園の中で楽しむだけでなく、弱音を吐くことなく、長い道のりを歩いたり、道中の紅葉や木の実を見て秋を感じたりと、この遠足を通して、心身に大きく成長できた。この遠足を学んだこと、感じたことを今後活かしてほしい。(我喜屋)

卒業式

二〇二一年三月十三日(土)、第九期生六十名が本校を卒業し、新しい世界へと踏み出していった。

コロナ禍の卒業式ということもあり、全出席者がマスクを着用し、児童の座席の間隔は前後・左右が空けられ、会場の換気が最大限行われたうえで、卒業式は行われた。

式は大変厳粛な雰囲気の中、進んだ。卒業生の息の合った入場から始まり、最後は教職員、保護者による拍手によって締めくくられた。感染症の拡大を予防するために在校生は各教室のZoom中継で式に参加した。それ故、例年に比べると見守ってくれる人の少ない式ではあった。それでも六年生は胸を張って堂々と会



感謝を綴った答辞を読む代表児童

場を後にしていった。卒業式の時間短縮に伴い、卒業証書授与では様式を変更した面もあった。だが、卒業生一人ひとりの名前が呼ばれ、返事と礼をしていく様子は、六年間の感謝の気持ちが届けられ、星野の校風である「真面目がカッコいい」を体現しているようであった。

コロナ禍で、満足に行事もできない一年間だったが、子どもたちなりに楽しみを見つけ、毎日登校し、笑顔で卒業する姿に感無量であった。前向きに頑張ってくれた子どもたちの輝かしい未来とその活躍を願わずにはいられない。(飯田)

書き初め会

毎年、本校では一月の初めに「お正月会」と題して、書き初め会を行っている。書き初めとは一年の抱負を書き、心新たに行動を改めるといった意味合いで理解されていることが多いが、書の上達を願うという意味合いもある。

一・二年生は、フェルトペンを使い、筆先の使い方や、字形を整えて書くということを学習する



集中して取り組んでいます

る。三年生以上は毛筆を使い、画仙紙に文字を書いた。大きな画仙紙にいくつかの文字を書くためには、字のバランスだけでなく、全体のバランスも考えながら筆を進めなければならない。本校では、二学期の後半から書き初めの学習を始める。授業の時間だけでなく、長期休み中に何十枚も自宅で練習して、書き初め会に臨む児童もいる。書き初めの時間は、普段何気なく書いている自分の文字とゆっくり向き合う大切な時間となっているようだ。

今回は、新型コロナウイルス感染症予防のため、教室だけでなく、体育館や多目的ホールなどの広い空間も使い、隣の児童との間隔を取り、換気をしっかりと行われた。普段とは異なる環境の中での書き初め会となったが、児童たちは集中して自分の文字と向き合っていた。(富田)

ipad講習会

各学校でICT教育が導入されている昨今、星野学園小学校でもipadを授業で活用している。二〇二一年四月十二日(月)、ipad講習会が六年生を対象に実施された。NTTドコモの方を招き、ipadの使用上の注意や取り扱い方の説明を聞いた児童らは真剣に耳を傾けていた。児童らは喜ぶ反面、緊張の面持ちでipadの諸注意をメモしていた。どきどきしながらipadの箱を開け、緊張しながらホームボタンに指を乗せる姿が印象的であった。また、メタモジ(アプリ)の講習も行った。クラスで一つの画面を



緊張しながら開封しています。防ずるために、今年度は中高生の参加を見送り、教員と保護者のみで式を行いました。新入生

入学式

二〇二一年四月九日(金)に、第十五回入学式が行われ、七十七名の新しい仲間を迎えることになった。当日は穏やかな晴天で、第十五期生の入学を天候までも喜んで迎えるかのようにであった。

本来なら本校中学生が新入生の胸元に記章を付けてくれたり、高校生が学園歌を歌ってくれたりするのだが、感染症の拡大を予防するために、今年度は中高生の参加を見送り、教員と保護者のみで式を行いました。新入生が入学するにあたり、校長先生のお話があるように、子どもたちが自分の中の個性をしっかりと見つけ、不得意を嘆き悲しむよりも、その不得意を伸ばそうと明るく努力し続け、志をもって社会貢献できる人に成長できるように、教員一同見守っていき。(飯田)



集中して取り組んでいます

対面式

二〇二一年四月十日(土)、本校が誇る全天候型グラウンド、星野ドームが温かい拍手で包まれた。新年度を迎え、全校児童が初めて一堂に会する「対面式」が執り行われたのである。

入場するのは、体のサイズよりも少し大きめの制服に身を包んだ新入生。在校生は晴れやかな笑顔と拍手で、星野学園小学校の新たな仲間を迎え入れた。式では新入生代表と在校生代表の挨拶と、校長先生からの歓迎と激励の言葉があった。それを聴く新入生は、希望と喜びの光を灯しているように見えた。これから児童らは、星野学園小学校の一年生として、多くのことを学び成長していくのだろう。輝かしい未来が今から楽しみである。(森本)



元気に入場する一年生です

児童会へのインタビュー

四月を迎え、新年度が始まり、年度末に行われた児童会選挙で決定した、新児童会も順調なスタートとなった。児童の代表として星野学園小学校へどのような思いがあるのか、児童会の子ども達へインタビューを行った。

「星野学園小学校のいいところ」をテーマに話を聞いてみると、施設や行事の豊富さ、笑顔や明るい挨拶といったことに加え、お友達に対しては勿論、学年を超えての思いやりがあげられているという意見が聞かれた。自分たちが一年生の時に高学年のお兄さんお姉さんから学校生活について優しく教えてもらったことが嬉しかったそうだ。そのため、自分の学校づくりへの思いにつながる。十五周年を迎える節目となる年に、より良い学校にするため、意欲的に取り組んでくれる頼もしい児童会に、期待したい。(伊藤)



今年度の児童会メンバーです

安全対策

二〇二一年四月十五日(木)、埼玉県警察署の職員による、「安全対策」が開かれた。低学年は、「自分の身は自分で守る」をテーマに、不審者に出会うことを想定した講習が行われた。両腕の前に出してぶつからない程度の距離が安全圏であるということ、大声で助けを求めながら走って逃げることを、相手が車の場合は進行方向と逆の方向に逃げること等を学んだ。高学年は、薬物乱用防止についての講習を受けた。危険薬物は、菓子類



薬物乱用について、学びました

等々の様々な名前が使われているため、騙されてしまう場合があることや、売買することも譲り受けることもしてはいけないこと等の指し導を受けた。薬物を使用すると、この先の人生を大きく変えてしまうことを学び、誘われても絶対に断らなければならないと強く感じることのできた講習であった。この講習を受けたからには、今後誘われるような状況に陥った際、毅然とした態度で断ることのできる児童に育ってほしい。(我喜屋)



姿勢を正してお話を聴きました